

HOYA株式会社

2024年3月期 第3四半期 決算説明資料

2024年2月1日

将来予測に関する記述

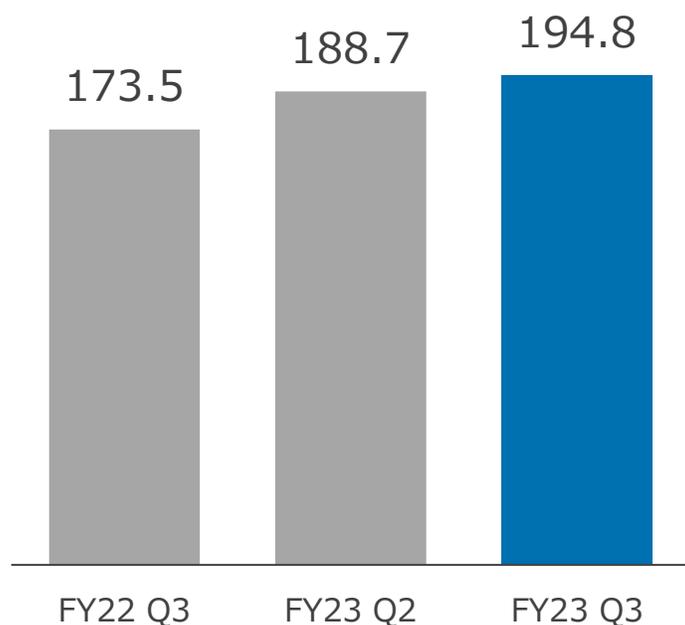
当社は、将来計画および業績見通しに関する情報の言及や情報開示を行う場合があります。歴史的事実に関するものを除く全ての記述は、将来予測と見做される可能性があり、資料作成時点における経営者の想定や入手しうる情報に基づくものです。これには、為替や金利、国際情勢、市場動向や経済状況、競争環境、生産能力、将来における売上/収益性/設備投資/キャッシュ/その他の財務指標の状況、法的、政治的、または規制上の状況、臨床または研究開発能力、顧客の行動または商慣習、医療費償還制度、疫病や健康問題などの影響を含みます。当社はこうした情報の正確性または完全性を保証しません。また、新たな情報や将来の出来事などの結果を受けて、将来予測に関する記述を更新する義務を負いません。

01. FY23 Q3の業績

連結業績概況

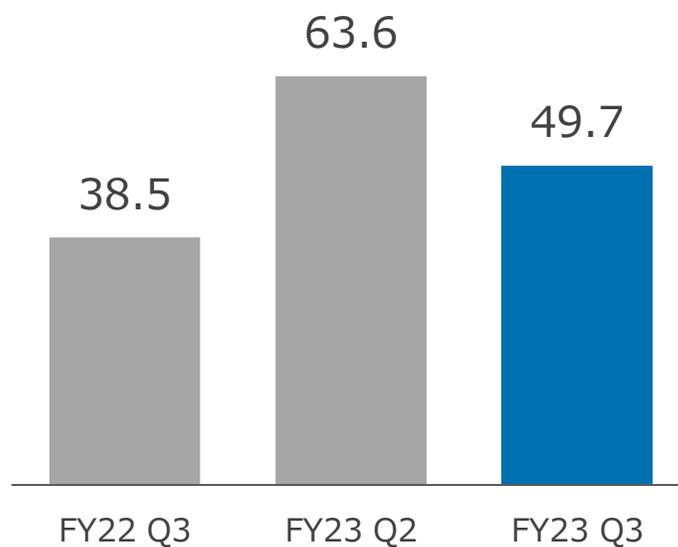
- 全ての製品がプラス成長となったライフケア事業、HDD基板が前年から大幅な反動増となった情報・通信事業ともに2桁増収となり、過去最高の四半期売上を記録した
- 情報・通信事業にて短期的に費用を絞り込んだこともあり、通常の営業活動からの利益についても過去最高となった

売上収益 (十億円)



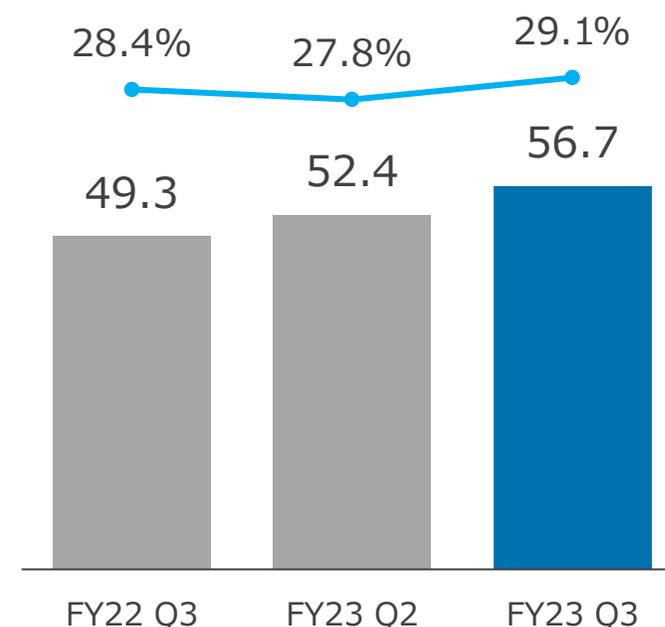
YoY +12% (CC* +8%)

税前利益 (十億円)



YoY +29% (CC +25%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率

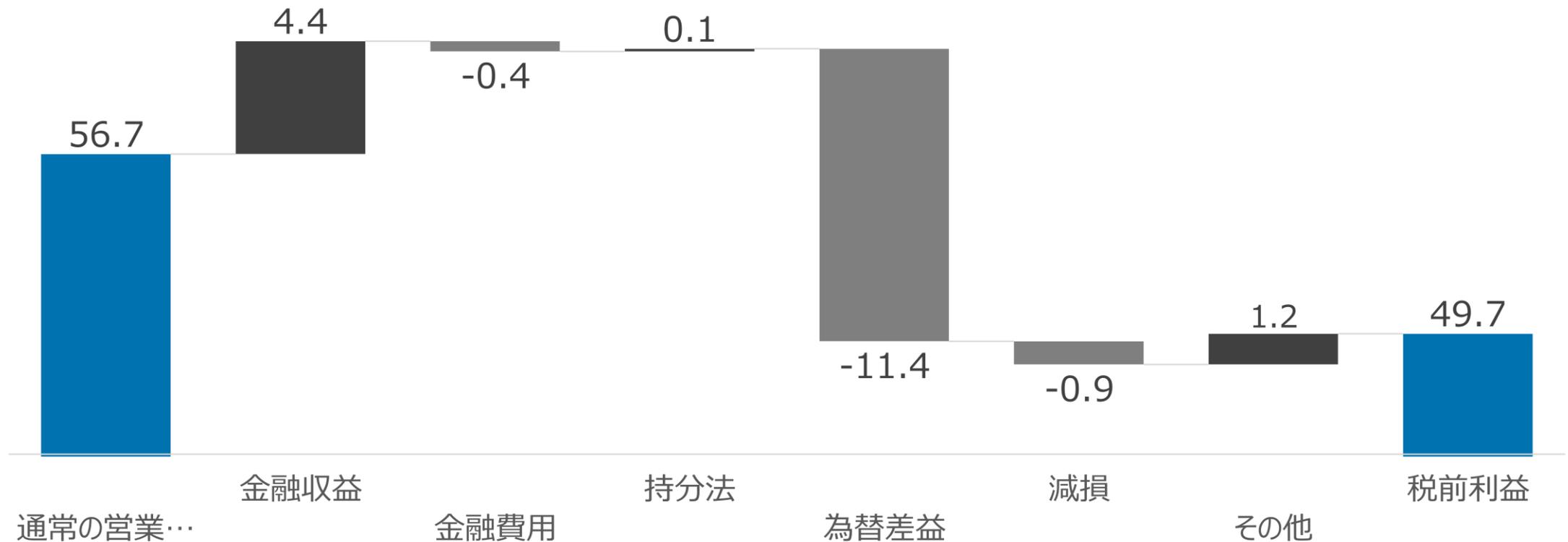


YoY +15% (CC +12%)

通常の営業活動からの利益と税前利益の差異要因

- 通常の営業活動からの利益と税前利益の差異70億円は、為替差損114億円が主な要因となっている
- なお、FY23 Q2においては為替差益や事業譲渡があったため、QoQで税前利益は減少となった

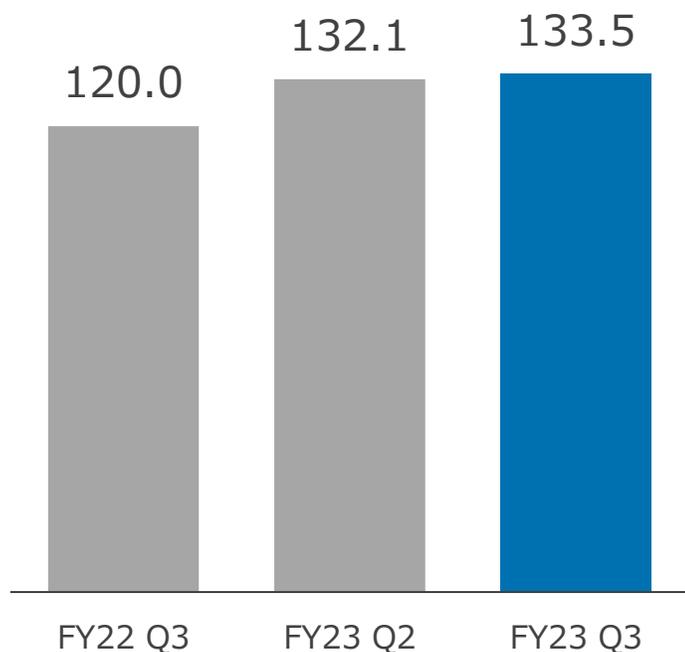
FY23 Q3通常の営業活動からの利益 - FY23 Q3税前利益 (十億円)



ライフケア事業概況

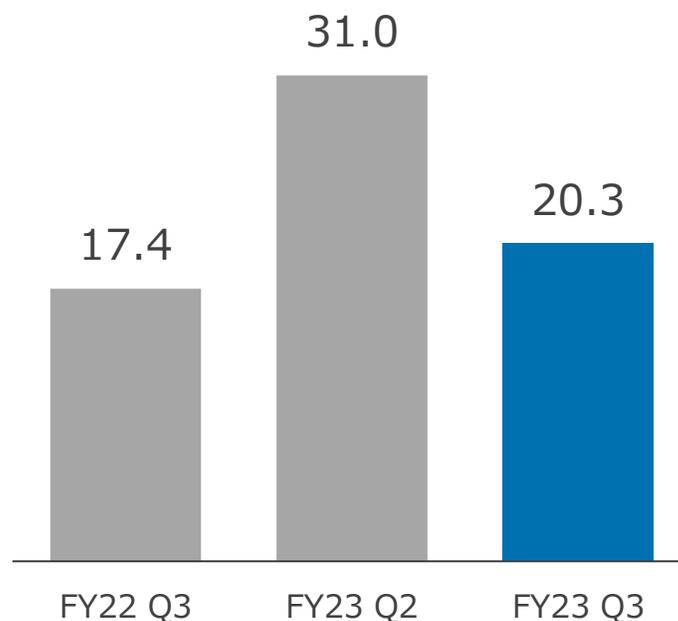
- 全ての製品において需要が堅調に推移し、増収を達成
- 通常の営業活動からの利益率は、目安としている20%前後のレンジ内におさめた

売上収益 (十億円)



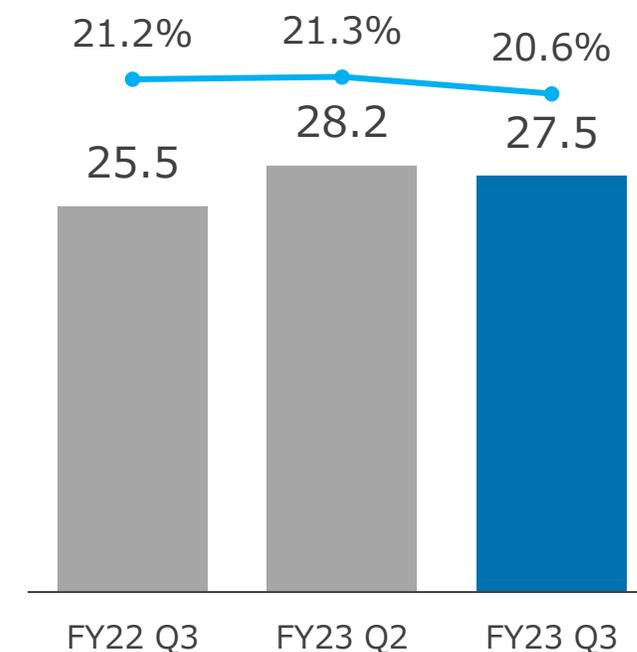
YoY +11% (CC +6%)

税前利益 (十億円)



YoY +17% (CC +12%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY +8% (CC +4%)

ライフケア事業 製品別概況：メガネレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+12%

+6%

当四半期の状況

- 調光ver.などが加わったMiYOSMARTや、チェーン店売上が引き続き増収をけん引
- 累進レンズの新製品LifeStyle 4やレンズコーティングの新製品Hi-Vision Meiryoが好調な立ち上がり

今後の課題/展望

- マクロ環境が悪化している中国市場を注視しつつ、ピークシーズンであるQ4の需要を着実に取り込む
- MiYOSMART familyやHi-Vision Meiryoなどの付加価値製品の拡充を継続し、製品ポートフォリオを強化



ライフケア事業 製品別概況：コンタクトレンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+7%

+7%

当四半期の状況

- プライベートブランド品（hoyaONEシリーズ）やオンライン販売が引き続き好調
- 高付加価値製品により顧客単価が継続的に上昇

今後の課題/展望

- PB新製品hoyaONE LUMINOUSを発売（2/1）
- 出店可能エリアの調査/分析に基づく出店
- プライベートブランド品やオンライン販売の利便性による顧客リテンション向上。購入体験の改善



ライフケア事業 製品別概況：内視鏡

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+9%

+2%

当四半期の状況

- 構造改革中の米国法人で売上成長に転換
- 中国で反腐敗運動が販売活動に影響
- 売上拡大と費用削減により収益性が改善

今後の課題/展望

- INSPIRAの拡販と新製品の開発促進
- 米国法人の構造改革のさらなる進展
- 継続的な収益改善活動



ライフケア事業 製品別概況：眼内レンズ

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+18%

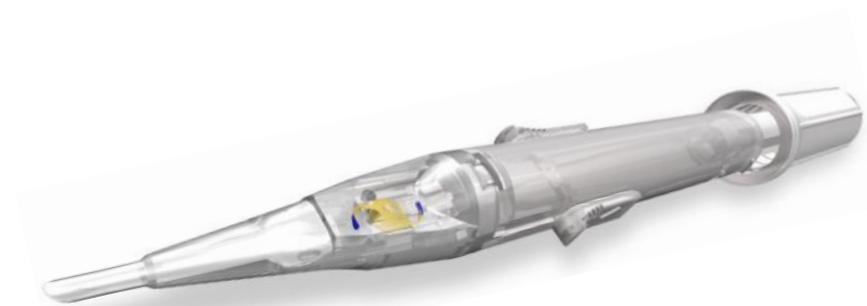
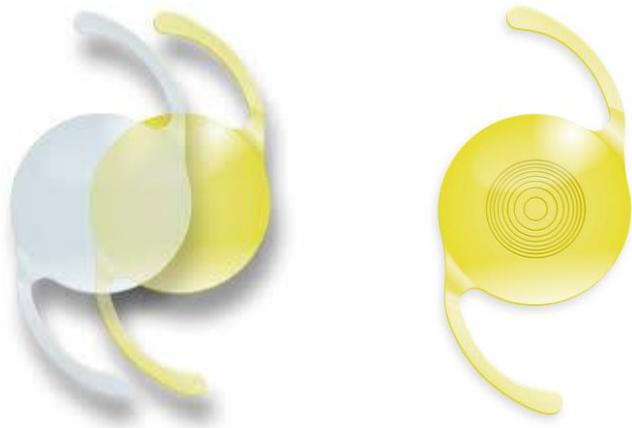
+13%

当四半期の状況

- 全地域において前年比1桁後半以上の売上成長
- 中国において集中購買制度や反腐敗運動の影響が懸念されたが、Q3においては2桁成長を継続

今後の課題/展望

- 中国での集中購買制度や反腐敗運動の状況を注視
- 中国国内生産に向けた活動
- 日本市場での3焦点IOLのローンチ



ライフケア事業 製品別概況：人工骨ほか

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+12%

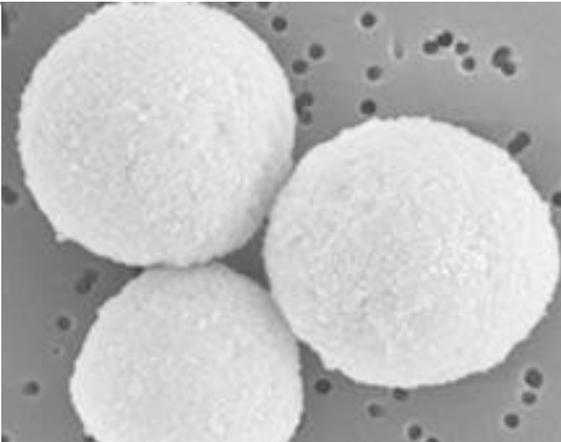
+8%

当四半期の状況

- 人工骨/内視鏡洗浄機/処置具など、主要製品が軒並み順調な売上成長を達成

今後の課題/展望

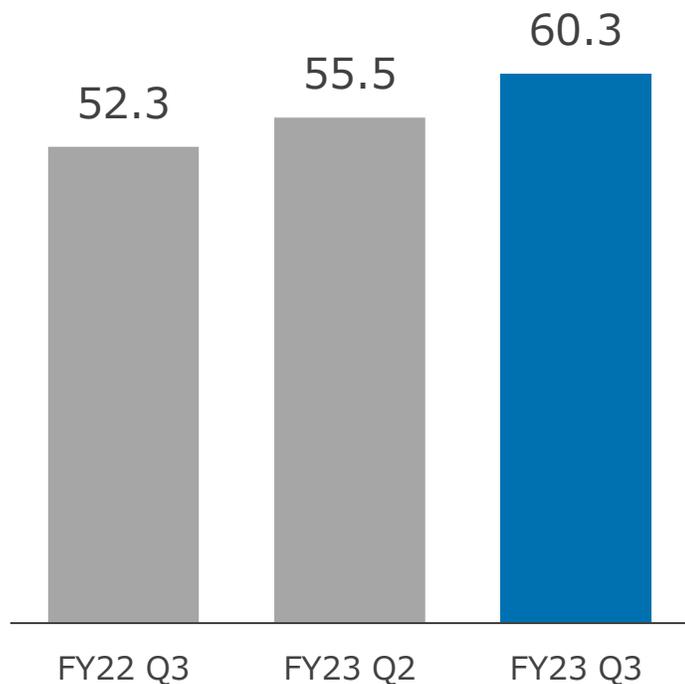
- 各製品における新製品の着実なローンチ
- クロマトグラフィ担体の製造能力の拡大



情報・通信事業概況

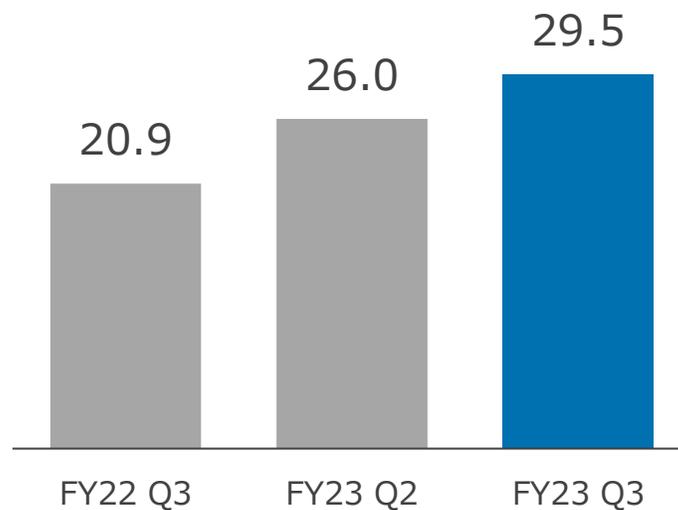
- 前年同期に大幅な減産をおこなったHDD基板が反動増となり、またミラーレスカメラ向け光学製品が好調だった映像の増収により、情報・通信は2桁の売上成長となった
- コスト削減を継続するなか、HDD基板の売上が想定を上回り、収益性は通常よりも高い水準となった

売上収益 (十億円)



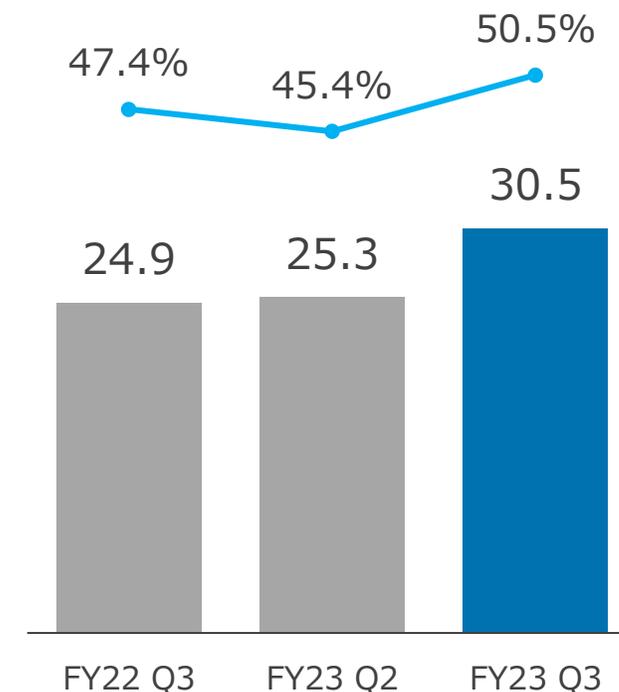
YoY +15% (CC +13%)

税前利益 (十億円)



YoY +42% (CC +39%)

Cf.通常の営業活動からの利益/利益率



YoY +23% (CC +21%)

情報・通信事業 製品別概況 : LSI

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

-3%

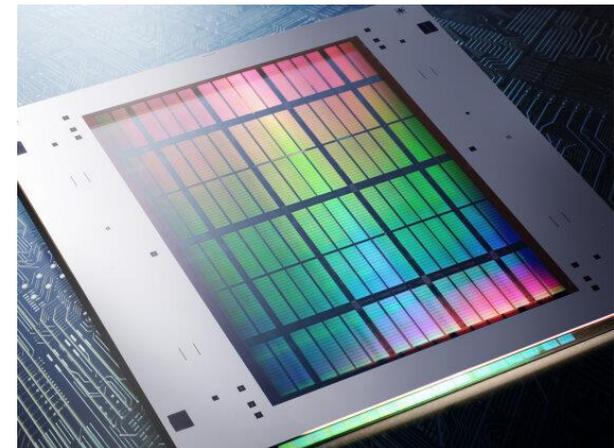
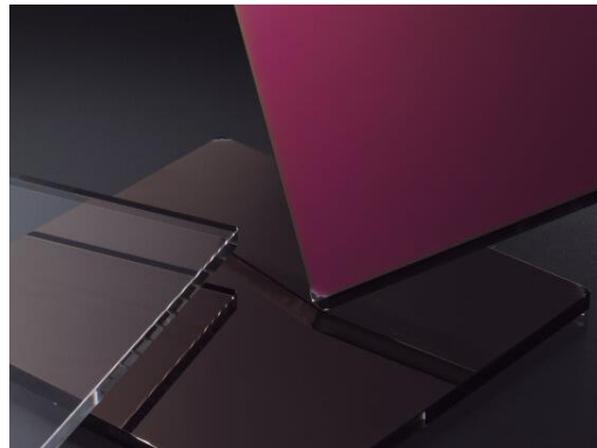
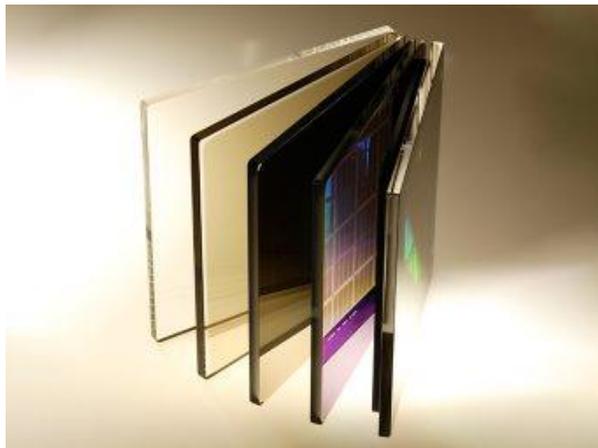
-3%

当四半期の状況

- EUVブランクス需要はYoYで減収も、QoQでは想定どおり微増となった
- DUVブランクス需要は成熟ノードを中心に安定推移

今後の課題/展望

- High NAや位相シフトマスク向けなど次世代製品におけるtechnology leadershipを堅持
- 次世代ノードをフックとした顧客拡大に向けた活動の継続



情報・通信事業 製品別概況 : FPD

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

-9%

-10%

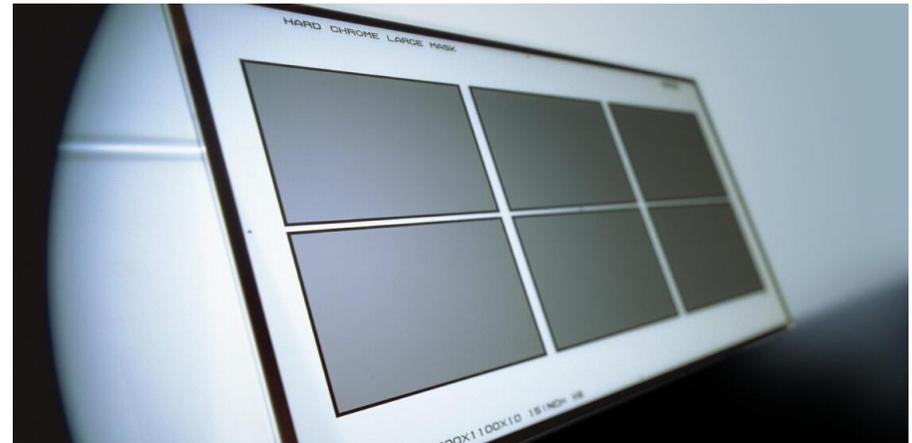
当四半期の状況

- 装置の入れ替えなどを背景に、当社の生産キャパシティが減少したことにより減収
- 中国重慶の工場建設が予定通り進行



今後の課題/展望

- 中国、韓国における先端OLED製品向け需要の取り込み
- 重慶工場の着実な立ち上げ。なお、建屋はまもなく竣工



情報・通信事業 製品別概況 : HDD基板

Reported Basis

Constant Currency Basis

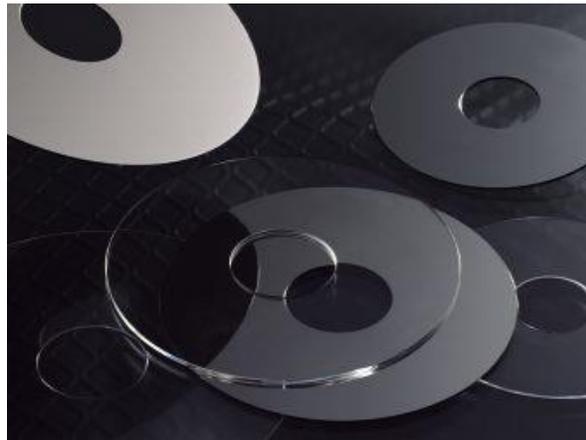
売上成長率

+73%

+66%

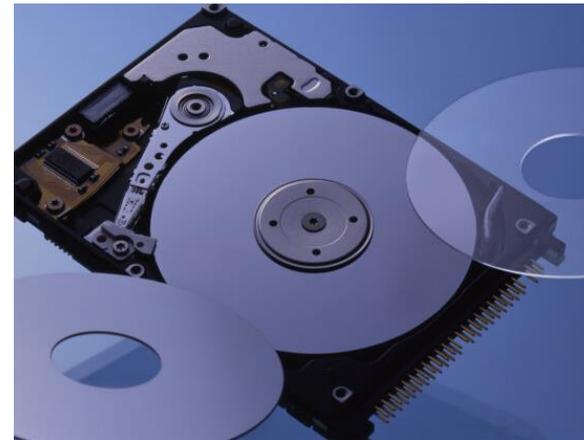
当四半期の状況

- 最終顧客におけるデータの使用率が上昇、HDD在庫の消化が進展した模様
- 前年において基板の大幅な減産をおこなったこともあり、大幅な増収となった



今後の課題/展望

- 依然として要注視だが、ニアラインHDD市場のなだらかな回復に伴う、基板需要の回復を見込む
- 顧客拡大に向けた取り組みに引き続き注力



情報・通信事業 製品別概況：映像

Reported Basis

Constant Currency Basis

売上成長率

+19%

+16%

当四半期の状況

- ミラーレスカメラの新機種発売等に伴う交換レンズの販売が好調に推移



今後の課題/展望

- カメラレンズ市場の在庫状況を注視
- 光学技術を活かしたビジネスドメインの拡大機会を継続的に探索



貸借対照表/キャッシュフロー関連



キャッシュ/株主還元

- 為替の影響や株主還元により現預金はQoQで150億円減少
- キャッシュフローを年間ベースで見据えつつ、余剰資金の機動的な株主還元をおこなう



設備投資*

- Q3実績: 103億円 (YoY +22億円)
- FY23 年間では450億円前後を見込む**

*CFベース。有形固定資産の取得
**為替変動により期首予算より増加（なお、減価償却も含め、為替変動次第で実績は変動する見込み）



減価償却

- Q3実績: 114億円 (YoY -12億円)
- FY23 年間ではCCベースで前期並みの500億円前後となる見込み

02. FY23 Q4&通期 業績予想

業績予想

Q4：情報・通信事業は、前年Q3からQ4にかけてHDD基板売上の大幅反動増があったこともあり減収を見込むものの、ライフケア事業の堅調な需要が続くことで、全体では増収を見込む。

通期：過去最高の売上収益ならびに税引前利益を達成する見通し。

(十億円)	Q4 FY22	Q4 FY23	YoY	QoQ
売上収益	185.8	190.2	+2%	-2%
税前利益	54.0	52.5	-3%	+6%

Q4為替前提 USD=145円、EUR=157円

(十億円)	FY22	FY23	YoY
売上収益	723.6	756.0	+4%
税前利益	215.8	217.0	+1%

本資料の表記について

- ✓ 当社は国際会計基準（IFRS）を適用しています。
- ✓ 2023年4月～2024年3月の会計期間を2024年3月期もしくはFY23と表記しています。
- ✓ 億円未満の金額は四捨五入しており、そのため合計値が合わない場合があります。
%は実際の金額を基に算出しています。
- ✓ 「通常の営業活動からの利益」は、税引前四半期利益から金融収益・費用、持分法投資損益、為替差損益及び非経常的に発生する損益等を除いて算出している参考値です。
- ✓ 本資料の財務諸表は明細を割愛しています。詳細な財務情報は決算短信もしくは決算短信補足資料をご覧ください。
<https://www.hoya.com/investor/kessan/>

Innovating For a Better Tomorrow

HOYA